・就活…空白期間の説明

高校時代は勉強が楽しかった．しかし予備校での受験のための勉強は本質的ではないように思えた．

なんのために勉強を？親の期待にこたえ続ける意味とは？人生の方向性に悩み，周りとの違いを感じていた時村上龍の本に衝撃を受けた．

衝撃を受けたのは芥川賞作品「限りなく透明に近いブルー」，作者のメッセージは明確ではないにも関わらず迫力がある文章．主人公の退廃しつつも達観した姿勢．

小説家…二つの世界をいったり来たりするキャラクター，「世界の終わりとハードボイルドワンダーランド」を参考にしたものを書こうとした．

表現したかったものは，モラトリアム特有の孤独感，異物感，肥大した自己意識．

表現するための努力…作品の分析，短編小説を書くなど．

表現の3要素

・比喩…語彙力や表現力，イメージ力が読者にも求められる．簡潔さを求めた．

・文体…断定した書き方や，ひねった書き方など作品の雰囲気を構成する要素．多くの人に読んでもらうため，簡潔さを求めた．

・物語…自身の経験を抽象化して他人に分かってもらう．筋を壊しても問題がないと気づいたのでそこに挑戦しようとしていた．

結局自身がモラトリアムを解決することが出来ていなかったため，悩んでいる主人公はかけても，それを解決する物語は書けなかった．

教授（下原）に呼び出されて，授業に出始めた．

ニューラルネットワークに興味を持って，頭の中でDNNを作成して，境界の複雑さから3層で十分と判断した．→その後DNNが流行する

・研究

・歩行者認識

・なぜそのテーマを選んだのか

研究をやるうえで，will・must・canを考えた．Will…機械学習やりたい，must…自動運転，can…精度はムズイ，速度もムズイ，中間は？カスケード処理がある．

・どうそれを解決したのか…そもそも何故処理速度が必要なのか→飛び出しを防ぐため→

初め考えたのは通信情報から飛び出しが起こりそうならば，処理アルゴリズムを変更するのもだが，これはあまり良いものに思えなかった．何故なら，最低品質を保証できないから．他車両に歩行者が写っていないときのことを考えると精度が高い処理アルゴリズムに処理速度も求められ，結局意味がない．通信の情報は必ずしも信頼できるものではなく，補助的に使用すべきである．

そこで処理が早いアルゴリズムに補助的に歩行者位置情報を使うことを思いついた．

・苦労した点など

・チームワークに関する質問．

研究テーマ決め，

・